



「学校の森」への第一歩—植林風景—

(特非) アフリカ児童教育基金の会ACEF

(ケニア共和国) イシオロ郡、 エンブ郡の半乾燥地域における 植林活動と環境・森林保全教育活動

一般助成

1年目

知識の提供・
普及啓発

植樹数

5,000本

全植林樹の活着率

63.6%

活動の全体目標に
対する達成度

80%

課 題

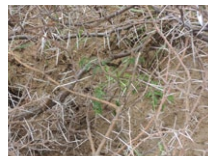
森林資源の荒廃や土壌劣化を促進している地域コミュニティの植林に対する意識の低さ、知識の少なさ。

目 標

地域住民、特に若い世代の人々が森林保全の大切さを理解し、環境保全意識の向上をした上で、植林活動が継続的かつ伝承的に技術向上されるよう地域コミュニティを活性化する。

活動内容

●エンブ郡カニョンガ地区、イシオロ郡シャンバニ地区、ロティキ地区にて半乾燥地に適したムカウ(メリアヴォルケンシ)種を中心とした5,000本の植林を実施した。●持続的森林保全・緑化につなげるため、地域コミュニティグループ及び学校を対象とした環境・森林保全セミナーを継続的に実施した。●活動参加者が活動を通じて得た経験や知識を次世代へ伝えるために、参加者を一堂に会した雄弁(プレゼン)大会を実施した。



乾燥地ならではの棘を利用して動物避けとした

達成できなかったこと

天候不順と、学校休み期間に苗木用水の確保が難しかったため、学校の活着率が低下した。全体としての活着率目標70%に対し、結果的に63.6%であった。

今後の展望

活動の成果を維持しつつ拡大を目指して、植林地を利用したアグロフォレストリーを実践する。

成果と工夫した ポイント



成果

- ・全植樹数5000本。活着率は63.6%ながら、学校を除いた地域コミュニティグループだけでは77%を超える。
- ・雄弁大会では全参加団体(5校3コミュニティ)がセミナー内容を総括するプレゼンを披露した。

工夫

家畜による食害を防ぐため、アカシア類の棘で苗木を囲みフェンスとして利用した。